

福島放射線の安全宣言と政府への要望

巨大地震と津波に襲われた福島第一原子力発電所の放射線事故から4年が経過しましたが、未だに原発20km圏内の住民の帰還がなく、復興がされていません。こうしたこともあって、福島産の農水産物の風評被害が少なからず続いています。

核爆発で壊滅した広島・長崎の両市の復興は、その年から始まり順調に完了しました。福島との違いは不可解です。黒鉛炉が暴走崩壊したチェルノブイリ事故は高線量で30人が急性死亡しています。一方、軽水炉事象だった福島は低線量で、運転職員たちの急性放射線障害はなく死亡者はいません。それは地震波を検知し原子炉が自動停止したからでした。

福島の低線量の状況は国内外の科学会議の報告で明確になってきています。国内の放射線影響学会、保健物理学会、放射線防護医療研究会、IRPA2012、ICRR2015などの専門科学会議では、広島・長崎やチェルノブイリに比べて圧倒的に低い線量であったのが福島事象であることが報告されています。

本年3月衆議院第一議員会館で開催された放射線の正しい知識を普及する研究会SAMRAI2014は、福島の低線量の科学事実を明確に示し県民に健康被害なしとの結論と、正しい知識の普及と20km圏内の速やかな復興再建を促すことを日本政府へ提案しました。



私たちは今回、福島県郡山市で福島県での放射線衛生現地調査を継続している専門科学者高田純札幌医科大学教授によるセミナーを開催し、データをもって福島の低線量、20km圏内の大幅な線量低下の事実、県民に健康被害が発生していないし今後も発生しない、そして帰還できることを理解しました。福島の放射線は安全レベルにあるのです。

私たちは、日本政府が速やかにインフラを復旧して20km圏内を再建すべく最大限の取り組みをされることを願います。そのため、先のSAMRAI2014で提案された7項目を政府が実施することを要望いたします。

福島放射線の安全宣言 郡山セミナー

参加者一同

2015年7月20日

参考文献

- 1 IRPA13 13th International Congress of the International Radiation Protection Association, Glasgow, 2012.
- 2 UNSCEAR 2013 REPORT.
- 3 ICRR2015 15th International Congress of Radiation Research, Kyoto, 2015.
- 4 SAMRAI2014, 第一回放射線の正しい知識を普及する研究会、東京、2015.
- 5 SAMRAI2014 論文集 放射線防護医療 10, 放射線防護医療研究会、2015.
- 6 高田純 「決定版 福島放射線衛生調査」医療科学社 2015.
- 7 放射線防護情報センター、<http://rpic.jp/>

SAMRAI2014 日本政府への提案



高田 純
Jun Takada

モハン・ドス
Mohan Doss

服部禎男
Sadao Hattori

ウエード・アリソン
Wade Allison

中村仁信
Hironobu Nakamura

- 1 福島県民の低線量率放射線の事実と住民に健康リスクがないことの科学理解を、国内外へ普及するために、日本政府は最大限努力する。
- 2 全ての国民、そして特に福島県で強制避難している人たちに正しい放射線の情報と科学が届くように、科学講習が受けられる環境を整えること。
- 3 政治的判断で強制された食品中の放射能の基準を、前原子力安全委員会の指標による基準に戻すこと。
- 4 福島 20km 圏内の放射線の線量の現実的な評価をするために、専門科学者および、あるいは放射線管理官が個人線量計を装着した形で、住民のように住宅に滞在したり暮らすことが許可されるべきである。
- 5 福島第一原子力発電所 20km 圏内のブラックボックス化した状況をあらため、浪江町で継続する和牛の飼育試験の民間プロジェクト等の帰還へ前向きな取り組みを国としても認識し、支援すること。
- 6 福島第一原子力発電所 20km 圏内の地震津波で破壊されたインフラの早期な復旧を実現し、帰還希望者の受け皿を整えること。
- 7 日本の原子力施設は適切な改善がなされた後、可能なかぎり迅速に再稼働されるべきである。

以上